

## ◇ 令和6年度 指定管理者事業評価書

施設名	草津川跡地公園			指定管理料	利用料金	支出	経理の状況	施設運営の方針
施設所管課	建設部	草津川跡地整備課	初年度	103,116,350円		106,841,237円	予算計画に基づき合理的かつ効果的に支出を図る事により、事業の効果を最大限に引き出せた。	わたしらしく暮らすまち草津を実感する公園”人とまちの共創拠点”Well-Being parkを目指す。
施設HPアドレス	<a href="https://www.kusatsugawaatuchi-park.com">https://www.kusatsugawaatuchi-park.com</a>			2年目	103,241,202円	106,873,515円	予算計画に基づくも執行時には内容の精査を図り、最大限の成果が引き出せるように支出した。メリハリのある執行により、事業の成果をあげる事ができた。	公園の緑を多様な主体が楽しめる機会の創出を図り、新たなまちの魅力を共創する。
指定管理者名	草津川跡地公園マネジメント・パートナーズ			3年目				
指定期間	令和5年4月1日～令和8年3月31日			4年目				
評価対象期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日			5年目				

●総合評価の基準		○その他の項目	
5	☆☆☆☆☆	☆の総合計数に対する評価点の合計の割合が90%以上	公募・非公募の別
4	☆☆☆☆	☆の総合計数に対する評価点の合計の割合が70%～89%	使用料
3	☆☆☆	☆の総合計数に対する評価点の合計の割合が50%～69%	指定管理者による運営開始日
2	☆☆	☆の総合計数に対する評価点の合計の割合が30%～49%	施設の供用開始日
1	☆	☆の総合計数に対する評価点の合計の割合が29%以下	指定管理導入前の運営形態

### ◆総括評価を概括した総合評価の所見(成果・改善等)

●指定管理者の総合自己評価…	☆☆☆☆	●市(施設所管課)の総合評価…	☆☆☆☆
<b>令和6年度の管理・運営に係る事業目標(年度当初に記入)</b>			<b>事業目標および管理・運営に対する評価(事業年度終了後記入)</b>
わたしらしく暮らすまち草津を実感する公園”人とまちの共創拠点”Well-Being parkを、①かたち、②うごき、③しくみを一体的に捉え、安全で安心な公園の運営管理を実践する。			草津川跡地公園の管理運営方針に基づき、公園の維持管理・運営を行った。公園全体の連携や来園者数の拡大に繋がるイベントを実施され、にぎわいを創出された。指定管理者が実施している、「緑の豊かさ」、「清潔さ」、「安全性」、「対応の良さ」、「便利さ」からなるアンケート調査において、全項目の平均点が前年度同様に高く、利用者の満足を得られた高い水準の管理運営であったと認められる。
①かたち⇒多様な市民が公園でそれぞれの役割を持ち、その役割を果たすことのできる公園 ②うごき⇒市民が誇りと愛情を感じる公園を支える体制づくり ③しくみ⇒多様な主体と共に、つながりや新たなまちの魅力を共創する			
<b>事業目標および管理・運営に対する自己評価(事業年度終了後記入)</b>			<b>公募・非公募、使用料・利用料金制の導入についての効果の検証</b>
Well-Being parkの具現化 →清潔で美しく、安全で安心な公園づくり ・園内パトロール、園内巡回を毎日実施、自治会と連携した防犯パトロールの実施、センサリーツアー(4回/年)による課題の抽出と解決、警察や消防との連携、隣接自治会と防災施設の活用イベント、緊急時の対応研修の実施、清潔に保たれたトイレなど、施設や設備の保守点検などを実施した。 ①かたち⇒多様な市民が公園でそれぞれの役割を持ち、その役割を果たすことのできる公園 →3部会が合同して公園に寄与できる「堆肥プロジェクト」のプロデュースを実施した。 ②うごき⇒市民が誇りと愛情を感じる公園を支える体制づくり →区間2の「放置うんちゼロを目指す協力隊」や区間5の「堤さくらを観守る会」など市民の積極的な参加を促した。 ③しくみ⇒多様な主体と共に、つながりや新たなまちの魅力を共創する →草津まちづくり会社、隣接自治会、多様な事業者との連携とイベントの実施をした。			[応募状況等] 指定管理者の選定は、公園の管理運営に関して民間事業者等の多様なアイデアを活用するため、公募により行った。 [使用料制の導入] 駐車場等の利用者数など、利用料金の算出に不確定な要素が多く、利用料金収入を算出することが困難であったため、使用料金制を導入しており、安定した管理運営を実施いただいた。

◇施設に係る主な指定管理業務
①草津川跡地公園管理運営会議の全体会と各部会の運営に関する事
②草津川跡地公園の維持管理に関する事
③草津川跡地利用基本計画の理念実現に向けた取り組みに関する事
④草津川跡地公園の運営・維持管理計画の策定、実績確認、評価
⑤非常時や災害時の対応

◆評価基準	
☆☆☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、その水準よりもはるかに優れた内容である
☆☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である
☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、概ねその水準に沿った内容である
☆☆	仕様書・協定書等の基準は遵守し、若干の改善が必要な内容である
☆	仕様書・協定書等の基準を遵守しておらず、改善が必要な内容である

※必要に応じて評価項目欄を追加してください。

公園施設（建物・建築物等・樹木）・設備の管理、清掃、警備業務（仕様書P25～42）			
評価項目 1	指定管理者の自己評価		
	上半期評価	市（施設所管課）の評価	
★★★★★	上半期評価  仕様書の要求水準を遵守した上で各業務の推進を実施した。安心と安全を基本に美しい景観の維持の為に、照明設備、防犯設備の保守修繕や駐車場、駐輪場、手すりや柵などにパトロールを毎日実施し、不具合の場所は遅滞なく修繕を実施した。 緑地管理は植栽管理マニュアルを常に意識し、作業方法の標準化を図る事で職員の植栽技術の向上が図れ、美しい緑地管理ができた。 センサリーツアーでは、園内の安全を確保する内容を議論し、施設の修繕だけではなく、注意看板の設置などの運用面からの必要性を全体で認識し、表示物の掲示や改修を実施した。 イベント回数の増加や規模が大きくなるなかで、駐車場の事前対策や施設の劣化（芝生の痛み等）を防止した。 各区間の遊具には特に注意をして点検を実施するとともに、裸地部分は利用状況に応じて人工芝を敷き詰め、利用者の安全確保を実施した。	上半期評価  仕様書に定める要求水準を遵守し、維持管理を実施した。指定管理者・市・民間事業者等が集まり公園内の状況確認を行うセンサリーツアーを実施し、適切な修繕等、ガーデンの良好な維持管理を行った結果、指定管理者によるアンケート調査の「緑の豊かさ」について、前年度同様高い満足度となった。	
	★★★★☆  下半期評価  清潔で安心安全な公園を維持する為に、仕様書の要求水準を遵守した上で専門業者による点検と定期的な自主点検を実施した。特に区間2の防犯カメラは費用対効果を検討し設置を実施したことにより、公園利用者の安全に繋がった。 1月に隣接自治会と合同で防災設備の利用体験を図るイベントを実施したことにより、管理方法や緊急時のマニュアルを見直し、災害時の公園の利用について参加者と共有した。 植栽管理は植栽管理マニュアルを基に実施し、要求水準を遵守した。特に区間5両岸の桜の古木は、腐朽による枯れ枝の落下や倒木の恐れが無いかを定期的に確認し、未然に発生の防止を図る為、強剪定を実施した。また、生育不良が散見される樹木については、適切な樹勢回復プログラムを園地スタッフと共に検討、実施を図り、植栽植物の管理技術を身に着けた。 区間2では犬の糞尿対策を市民の方々と一緒に取り組み、マナーアップイベントの実施や、トイレ周辺にリードフックの設置（試験導入）や、糞の回収ボックスを設置したことにより、利用者が犬の糞尿について認識し、清潔な公園として認識いただけるように努めた。	下半期評価  仕様書に定める要求水準を遵守し、維持管理を実施した。糞の放置問題にはマナーアップキャンペーンを行う等対策を講じ、環境・衛生を維持する管理を行った結果、指定管理者によるアンケート調査の「清潔さ」について、前年度同様高い満足度となった。	

公園の利用、使用料等の収納、広報、利用促進に関する業務（仕様書P43～48）				
評価項目 2	指定管理者の自己評価		市（施設所管課）の評価	
	上半期評価	公園の利用申し込みや使用料等の収納は、条例や規則に基づき、公正かつ適正に推進した。不具合の発生を防止する為にマニュアル化の推進と重複チェックを進め、業務の効率化と定着を図った。 利用促進として、Instagramの情報整理を図り、公園にかかる①市民活動の紹介や②公園内のガーデン紹介を詳細に投稿したり、③ai彩ひろばへのバスによるアクセスを分かりやすくしたことにより、利用者の利便性の向上に努めた。また、公園パンフレットをイベントや植物情報が解りやすく原寸大の縮尺に変更し、季節ごとに更新して発行することにより、多様な利用者ニーズに応じて対応できるように努めた。	上半期評価	仕様書に定める要求水準を遵守し、有料公園施設の使用料徴収、広報展開を行った。利用者視点に立ち、分かりやすさを追求したインスタグラムの更新を行ったことにより、フォロワーが前年より増加し、より効果的な広報が行われた。
	★★★★★		★★★★★	
	下半期評価	利用促進として、公園パンフレットのシーズン毎の更新を行い、花暦とイベント掲載を通して、タイムリーな情報提供を行った。また、「おソトリビング」のイベントでは、インフルエンサーを誘致して公園の魅力を発信し、Instagramのフォロワー外閲覧者数の拡大につなげ、併せて事業者とはインフルエンサーに店舗で使用できるチケットを配布し、施設利用の促進と拡大に繋げた。「play in the park」イベントでは、公園に隣接している大路学区と草津学区と共に防災という観点から連携し、災害時における防災施設の設置と利用の体験を行ったことにより、来園者が減る1月に公園のにぎわいを創出した。	下半期評価	仕様書に定める要求水準を遵守し、有料公園施設の使用料徴収、広報展開を行った。上半期に引き続き、インスタグラムやパンフレットを更新し、より効果的な広報が行われた。また、新たにインフルエンサーを誘致し広報を行うなど、公園の魅力発信に努められた。隣接自治会と連携し実施した「play in the park」イベントでは、防災機能としての役割を持つ公園として周知するとともに、公園のにぎわいを創出された。
	★★★★★	また、各種のガーデンを活用してのスタンプラリーを1週間にわたり実施や、草津市広域連携事業として「くさつ桜まつり」を実施し、公園からまちなかへにぎわいが波及するように、園内にインフォメーションを設置するなどして、公園会場と市内の会場との連携を行った。	★★★★★	

指定事業の実施に関する事（草津川跡地公園管理運営会議の運営に関する業務）（仕様書P49～50）				
評価項目 3	指定管理者の自己評価		市（施設所管課）の評価	
	上半期評価	管理運営会議の下部組織である市民活動部会、区間2事業者部会、緑の管理活動部会は、職員が兼務して各部会のコーディネーター業務を推進した。毎月の部会にはそれぞれの部会のコーディネーターが出席し、3部会の共通テーマや課題について共有し、事業テーマを模索した結果、市民活動と緑の管理活動が協力して、フラワーフェスタ、ヒマワリウィークの実施に繋げた。	上半期評価	各活動部会の事務局として、仕様書に定める要求水準を遵守し、毎月適切な運営を行った。各活動部会の実施、民間事業者、市等が主催するイベントへの参加、指定管理者によるイベントの実施などをを行い、公園の魅力向上につなげた。
	★★★★★	3部会合同の堆肥ピット活用プロジェクトは、剪定枝や落葉などを資源として活用することを通して、それぞれの部会の持ち味を生かした連携を果たすなど、高度な活動へと昇華させることができた。	★★★★★	市民活動と緑の管理活動が連携してイベントを実施するなど、各部会の垣根を超えて、公園のにぎわい創出に努められた。
	下半期評価	各部会運営について、その成果と課題を検証した。特に「緑の管理活動部会」においては、部会員の組織や活動の見直しを行い、市民活動としての方向性を持たせ、会員の募集を行った。 「事業者活動部会」は草津まちづくり株式会社と連携して実施し、新年度の部会目標を定め、毎月の会議で「魅力的な公園」「つかいやすい公園」にフォーカスして議論を重ね、魅力的な公園づくりについて検討していく。 管理運営会議は3月に実施し、各コーディネーターからの実績と次年度の計画が示され、それぞれの部会の課題について議論を深めるように調整した。	下半期評価	各活動部会の事務局として、仕様書に定める要求水準を遵守し、毎月適切な運営を行った。管理運営会議を実施し、今年度の実績と来年度の目標を関係団体と共有するなど、連絡調整を図られた。
	★★★		★★★	

指定事業の実施に関する事（市民活動のコーディネートに関する業務）（仕様書P 50～53）			
評価項目 4	指定管理者の自己評価	市(施設所管課)の評価	
	上半期評価  常駐の市民活動コーディネーターが、いつでも相談できる体制をつくることにより、市民活動に関する相談件数は上半期で31件あり、うち、4組から新規の相談があつた。 くさねっこプログラム（上半期131回）や緑の管理活動と市民活動の連携イベントとして、「フラワーフェスタ」「ひまわりういーく」を実施するなど、市民活動が活発に行われるよう調整した。また、イベントの実施に当たっては、活動ニーズを把握し、公園の植物やその空間を活かしたプログラムを実施し、認知度の向上および市民が公園に深く関わることを知つてもらえるように進めていった。	上半期評価	仕様書に定める要求水準を遵守し、市民活動コーディネーターによる支援等を実施した。継続した新規活動団体等の発掘や各部会との連携などにより、市民活動の創出に努められた。 前年と比較し、上半期の市民活動のイベント数が減っているので、引き続き市民活動が活発に行われるよう調整を図り、市民活動の創出を支援すること。
	★★★★★  区間2にある堆肥ピットを軸に、緑の管理活動、事業者活動、市民活動の3部会が連携することで、公園にある資源が循環するようなくみづくりを目指して市民活動を進めていた。その足がけとして、堆肥ピットを使った取り組みに参加したい市民を募集し、堆肥づくりを学ぶくさねっこカレッジを上半期に2回実施した。	★★★	
	下半期評価  市民活動の相談件数、プログラムの実施回数、パフォーマー登録数、チームメンバー数などは前年以上となり、市民活動体制の構築および市民活動に係わる関係者との関係づくりを積極的に行った。 地元採用の市民活動コーディネーターを中心に、くさねっこカレンダーやアニュアルレポートの作成、くさつ桜まつりのくさねっこプログラムの調整を行った。特に、くさつがわ川柳コンテストのイベントでは、企画から実施に向けてコーディネーターが中心となって進めていく、89作品の応募と125票の来園者投票があるなど、活発な市民活動が行われるように支援した。	下半期評価	仕様書に定める要求水準を遵守し、市民活動コーディネーターによる支援等を実施した。継続した新規活動団体等の発掘や指定管理者主催イベントとの連携などにより、パフォーマー登録数が増え、年間を通しての市民活動プログラムも前年度以上実施された。 地元採用の市民活動コーディネーターが主体となってイベントを支援するなど、市民活動の創出に努められた。
	★★★★☆  11月に資源の循環をテーマに「草と土と循環フェス」開催し、新たな市民活動の創出に繋がるように支援を行った。	★★★★★	

自主事業に関する事（仕様書P 63）			
評価項目 5	指定管理者の自己評価	市(施設所管課)の評価	
	上半期評価  利用ニーズを把握し、要望の多かった自動販売機の電子決済対応機器の増設を一部の販売機で行い、利便性の向上および利用促進に繋げた。同様に、公園窓口にて販売しているイタリアンジェラートについても、電子決済の導入に向けて進めていた。 また一部自動販売機で商品被りが目立った為、販売立地と実績から利用者の特性を割り出してラインナップの変更を行うとともに、イベント情報(場所・メイン層)を補充業者と共有し、売切れが発生しそうな商品の補充と、溢れ返りそうなゴミ箱については、可能な限りイベント開始直前と直後に1度ずつ回収いただくよう調整を行い、利用者の利便性の向上に努めた。 上半期3団体27名に対して有料視察を実施した。事前に視察の主旨や質問等の聞き取りを行い、的確な説明と回答を準備したこと、高い満足度と公園の知名度向上に繋げた。	上半期評価	公園利用者からの声を分析し、その要望に応え、自販機を電子決済対応機器へ変更し、利用者の利便性の向上に努められた。また、商品のラインナップについても、利用者の特性を割り出し、利用者の満足度の向上及び売上増加に努められた。
	★★★★★  ★  上半期同様に自動販売機については、商品被り及びラインナップの見直しを継続して行い、公園窓口にて販売しているイタリアンジェラートについては1月から電子決済を導入した。それにより、自動販売機に関する苦情件数が大幅に減少および利用者から満足のお声をいただくなど、利便性の向上に繋がった。 下半期2団体4名に対して有料視察を実施した。上半期も同様に、事前に質問事項を聞き取りし、的確に回答ができるように準備をして開催したため、高い満足度が得られ、公園の知名度向上に繋げた。	★★★★★	
	下半期評価  上半期同様に自動販売機については、商品被り及びラインナップの見直しを継続して行い、公園窓口にて販売しているイタリアンジェラートについては1月から電子決済を導入した。それにより、自動販売機に関する苦情件数が大幅に減少および利用者から満足のお声をいただくなど、利便性の向上に繋がった。 下半期2団体4名に対して有料視察を実施した。上半期も同様に、事前に質問事項を聞き取りし、的確に回答ができるように準備をして開催したため、高い満足度が得られ、公園の知名度向上に繋げた。	下半期評価	上半期同様、利用者の満足度の向上に向け、下半期も自主事業を実施し、公園の管理等に還元できる財源確保を実施した。
	★★★  ★  ★  ★  ★	★★★	